

令和 6 年 第 1 3 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和6年12月27日（金）

開会午後2時15分、閉会午後3時05分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1 番 大西 ゆかり

2 番 松岡 理

3 番 坪池 宏

4 番 黒田 卓

5 番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

水落 仁

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

小杉 健

参事・教育企画課長

板倉 由美子

教育参事・教育みらい室小中学校課長

山尾 佳充

教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財室長

辻 ゆかり

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長（高校跡地活用・学校施設担当）

中家 立雄

教育企画課課長（ICT 教育推進担当）

小林 匠

教育みらい室課長（県立高校改革推進担当）

嶋谷 克司

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

富川 展行

生涯学習・文化財室次長・課長（振興担当）

前川 秋人

生涯学習・文化財室課長（家庭成人教育担当兼青少年教育担当）

河原 千里

保健体育課課長（食育安全担当）

松嶋 保子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後2時15分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和6年9月30日開催の令和6年第10回富山県教育委員会会議録

令和6年10月18日開催の令和6年第11回富山県教育委員会会議録

令和6年11月12日開催の令和6年第12回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第27号 博物館の登録に関する告示の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

- (1) 臨時代理について（令和6年11月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）
教育企画課長から説明した。
- (2) 臨時代理について（令和6年11月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）
教育企画課長から説明した。
- (3) 公立小学校の設置及び廃止について
教育みらい室小中学校課長から説明した。
- (4) 令和7年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について
教育みらい室県立高校課長から説明した。
- (5) 令和6年3月県内中学校・義務教育学校卒業生進路状況調査結果及び令和6年3月県内高等学校卒業生進路状況調査結果について
教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。
- (6) 臨時代理について（教育職員の人事異動に関する件）
教職員課長から説明した。
- (7) 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
保健体育課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議決事項

午後2時58分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第28号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第28号 令和6年度富山県教育委員会表彰（学校給食優良学校等）の件
保健体育課長（食育安全担当）から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第28号については、適切な時期に公表することを決定した。

6 議事

○議案第27号関係

〔牧田委員〕

・再登録という話だが、有識者会議等、同じプロセスで再登録しているのか。

〔生涯学習・文化財室長〕

・審査等および有識者の意見聴取という形で、それらを総合して登録するということになる。今回は有識者の意見聴取の方は、植物園と関連した方ということでファミリーパークの名誉館長にお願いしている。

〔牧田委員〕

・法改正によってこの後も続くということだったが、普通は法改正のときは先に認めたものは優遇的にそのまま移行していいというのが法律だが、それをあえてもう1回審議しなさいという話になっているのか。

〔生涯学習・文化財室長〕

・再登録の手続きをするということになっている。博物館の向上、活用も含めた意味での法改正となっているからだ。

○報告事項(4)(5)関係

〔牧田委員〕

・まず高校生の就職内定率の件だが、こういう統計をとっているのは、高校生が就職したらそのまま同じ企業

で収入を得ることができるという前提での統計だというふうに私は認識しているが、最近では高校を卒業した生徒さんが地元の企業に就職しても3年以内に離職する方が多い。こういう統計を取り始めたときからはおそらく時代が変わってきていて、内定段階では斡旋され就職をしたが、働いてみたら何か違うとか言いながら転職していく。でも我々の望みは何かといえば、高校を卒業して就職をしてちゃんと暮らしていける、自分の足で生活を担っていけるようになって欲しいということだ。そういうことから考えると、これからは高校を卒業して就職したあとに、続いたか続かなかったかという統計も必要になってくるのではないかな。そういうことを少し意識して各学校で卒業生をトレースしていくということが、これから就職先を斡旋するときに大きな参考になると思うので、そういったトレースデータを取っていただきたい。

- ・もう1つは進学分野のカテゴリーで教育関係だけが著しくウエイトが下がっている。4年後にまた先生になる方が減ってしまうということに自動的に繋がっていくので、これは何か原因というか、何がそうさせたのかということ調べる必要があると思う。

〔教育長〕

- ・就職してから退職した部分について、商工労働部でそういった統計を取っていたと思う。それをしっかりこちらでも把握した上で、教育にどう生かすかということだと思う。

〔牧田委員〕

- ・商工労働部はデータを学校に頼んでいるのか。

〔教育長〕

- ・各企業だ。

〔牧田委員〕

- ・そうするとそれをどこかでクロスオーバーさせなければならない。

〔教育長〕

- ・今はそういう状況だ。学校側からのフォローがどこまで可能かというのはなかなか難しいと思う。

○報告事項(7) 関係

〔松岡委員〕

- ・富山県は水もおいしいし魚もたくさん獲れるというすごくヘルシーな良い食生活をしているのに糖尿病の人が少なくないのはおかしいという、富山パラドックスということで注目されている。それは調査の結果、車を持っていて歩かないからだという結果が出たというふうに記憶しているが、この体力調査の結果を見て、そういう親のお子さんもしっかり歩かないんだな、自然豊かな良いところに住んでいるけれど歩かないんだらうな、ということ思った。際立って低いというわけではないが、ちょっと子どもを歩かせなければならないと思った。

〔坪池委員〕

- ・生涯にわたって運動し続けるというのは大変重要なことだ。それが中学校や小学校の時代に習慣づけられたり、気持ちが定着したりということは大変大事なことだと思う。そういう意味では、部活もそうだが、体育の授業をどうするかということが大きな課題ではないかと思う。今回の資料の5番と6番というのは大事な資料だと思っている。多くの子ども達が興味を持てるような体育の授業の充実ということが問われていると思う。ただし学生時代に部活を一生懸命やっていたり体育が好きだったりしても、そういう人が全員、卒業してからも運動に親しんでいるかということ必ずしもそうではない。そのあたりを生涯にわたって運動するという視点で、授業の改善をさらに行いたい。

〔大西委員〕

- ・この資料は全国平均との比較だが、この年代のお子さんの体格に応じた適正な、どのぐらいの体力があれば健康でスポーツを楽しめるというような範囲、例えば握力は全身の筋力を示すので、握力だと何キロ以上何キロぐらいまでにどのぐらい入っているか、人並みはずれて低い子ども達はどうちょっと運動しましょうというような基準はここからは読み取れない。高齢者だとフレイルの基準は男性は握力28キロ未満、女性は18キロ未満というふうになっているが、そういうような明確な値というのはあるのかなと思いながら見ていた。また、先ほど坪池委員も言われたが、生活習慣において運動の習慣がどれだけ定着しているかということが

大事になってくる。生涯健康で健康寿命を延伸するためにも、小学生は楽しく体を動かすのが主かもしれないが、中学校はその動機づけに健康を入れても十分に動機になるので、そういうことも大切だと思う。

- ・先ほど牧田委員もおっしゃったが、高校生の進学先で教育学部が下がっているが、例えば大学が減ったのか単に希望する学生が減っただけなのか、何か明らかな原因が分かるか。

〔教育長〕

- ・スポーツについては学校教育のスポーツ、そして生涯スポーツというものを通して、生涯元気に活動するのはどうかということで、スポーツプランというのが知事部局で作られる。その中に学校も当然入ってきて、運動習慣をつけていこうという県民全体のスポーツに関する施策が取りまとめられることになると思う。そういうところも見ながら、かつ授業としてどうしていくかを考えているところだ。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・資料の 75 ページで、確かに学部別状況の中で教育が前年の 11.3%が 9.4%にさがっていて、その前の年はそこまで大きな変動が見られない。なぜかというところはまた確認させていただきたい。

〔黒田委員〕

- ・体育のところだが、5 番の項目で県に部活動の地域移行状況のデータがあるのか。部活動の地域移行が始まっているが、地域移行でやっているところと従来通り学校で部活をやっているところで変化が出てくるかどうか、わかるようであれば県としてもデータを持っていた方がいいと思う。

〔教育長〕

- ・部活動の活動地域について、今は試行という段階でやっている。地域展開というふうに名前を変えて取り組みを続けていくことになっているので、その動きとあわせて確認していきたい。

午後 3 時 05 分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。